横浜市鍼灸マッサージ師会の「あゆみ」

11師会の歴史

鶴見師会 …… 20
神奈川師会 …… 22
港北師会 …… 26
緑師会 …… 27
西師会 …… 31
中師会 …… 33
南師会 …… 34
港南師会 …… 40
磯子・金沢師会 …… 41
保土ヶ谷・旭師会 …… 44
戸塚師会 …… 46

横浜市鍼灸マッサージ師会歴代会長 …… 49

会長　**矢作 嘉鏡**

平成9年11月22日故林昌正氏偲ぶ会にて、相原義人氏（肢体障害者）により墨字として頂く

創立大正9年6月13日に神奈川区鍼術灸術按摩術営業組合より、分離して｛鶴見区鍼術灸術按摩術営業組合｝として発足する。初代組合長中山寛次郎氏畑増蔵氏が役員として尽力される。

当時は鶴見警察署に衛生課が主管であり、明治、大正の時代は徒弟制度で、警察の衛生課の鑑札免許であり、特別な免許者、以外は視覚障害者、下付も警察の衛生課で試験を受け、発行下付となっていた。（当時は木札に焼き印墨字で記載）

昭和12年　日華事変の発生となり、次々と物資の入手困難の時代となり、

昭和19年　の頃は銃後報告隊や徴用制度ができて、多くの業者は奉仕隊や軍に勤務する事になり、

昭和20年　8月、第2次世界大戦の終戦で軍需工場奉仕隊や軍の徴用も解除された、勤務は解散となる。

昭和22年　のGHQの命令で鍼灸の禁止問題がおきて、業界の死活問題となり業界組織や識者を挙げての陳情と努力の結集で辛うじて鍼灸の存続をする事ができた。

戦後、今迄の法律である営業取締規則が昭和22年12月で廃止となる。

昭和23年　1月1日より新身分法に改められて、あんま師・はり師・きゅう師・柔道整復師等の営業法となった。

昭和23年　4月には衛生関係の業務は保健所の扱いとなる。同年法改正により営業検定試験制度が廃止となり、特例により最後の検定試験が行はれた同年師会名を（鶴見区鍼灸按摩マッサージ師会）とする。

昭和24年　に法律の改正となり有資格者は再教育が義務付けられ、講習会が各地で行はれ240時間に及ぶ法令や医療関係の再教育が行はれた。以後専門学校制度・知事免許となり、現在は厚生大臣免許となる。

昭和25年　創立30週年

昭和35年　創立40周年

（昭和40年頃に営業団体と福祉団体に分かれて鶴見区鍼灸按摩マッサージ師会になる）

昭和45年　6月50周年を他の障害者の（ボランティア）協力もあって開催する。

昭和55年　6月の創立60周年には区師会顧問であった県会議員横山哲夫先生の父上の横山四郎先生に、ご協力をうけて開催する事が出来ました。（現在・横山幸一県会議員）

12代会長の時代に師会名を（鶴見区鍼灸マッサージ師会）と改める。

平成2年　株式会社ヨコヤマ・ユウランド鶴見の開業により、顧問、横山哲夫先生のご好意によって、ランドの中のマッサージ室の無償提供を受けて、障害者及び新規卒業者を含む技術育成の場として発足する。

平成11年　3月株式会社ヨコヤマ・ユウランド緑のマッサージ室も依頼を受けて開設、

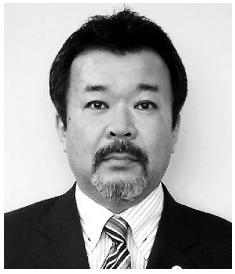
平成12年　創立80周年を開催。共に免許者のみ勤務とする。会員の25名が勤務する拠点となるが、夜間勤務が多く体調の不具合の発生と補充会員の不足で師会の事業としての受け入れ依頼を解消する。ランド勤務会員は鶴見師会を退会する。

平成20年　6月で88周年を迎える。

現在、会員36名・役員を少数にして浜師会の法人化に対処する。

鶴見区鍼灸マッサージ師会　歴代役員一覧表

暦年	暦代	会長	副会長	監事	経理	総務	業務	学術	厚生
大正 9/6/13	初代	中山寛次郎							
不明	2 代	海老塚多三郎							
不明	3 代	畑　増蔵							
不明	4 代	渡辺（名不称）							
昭和 21/4～25/3	5 代	海老塚多三郎							
25/4～31/3	6 代	林昌　正							
31/4～33/3	7 代	神崎勲雄							
33/4～35/3	8 代	林　哲夫							
35/4～43/3	9 代	林昌　正							
43/4～44/3	10 代	多田敏夫							
44/4～47/3	11 代	林昌　正							
47/4～平成 4/亡	12 代	岩崎保夫	大沢綾子		佐藤健三	小松原定夫	林　哲夫		古川　博
4/- ～6/3	13 代	矢作嘉鏡	大沢綾子		下山田昇	小松原定夫	林　哲夫	矢作嘉鏡	古川　博
6/4～10/3	14 代	小山英治	大沢綾子	小松原定夫	大沢綾子	竹田久子	林　哲夫	矢作嘉鏡	矢作嘉鏡
10/4～14/3	15 代	矢作嘉鏡	大沢綾子	小山英治	吉原芳武	奥平　正	林　哲夫	矢作嘉鏡	竹田久子 堀本
14/4～17/3	16 代	竹田久子	大沢綾子	矢作嘉鏡	吉原芳武	奥平　正 岩舘義矩	竹田久子 渡辺通弘	渡辺通弘	竹田久子
17/4～19/3	17 代	岩舘義矩	大沼和江	矢作嘉鏡	大沢綾子	奥平　正	大沼和江	渡辺通弘	奥平　正
19/4～	18 代	矢作嘉鏡	大沼和江	渡辺通弘	大沢綾子	奥平　正	大沼和江	渡辺通弘	奥平　正



会長　**岡部 裕志**

神奈川区鍼灸マッサージ師会は平成19年度をもって、創立96周年を迎えました。このように長い歴史がある師会ではありますが、火事により全ての資料を焼失するという不幸な事故により、とても残念な事ではありますが、当師会独自の正確な歴史資料は現存しておりません。

先輩の諸先生方に取材をし、二俣川にあります神奈川県立公文書館所蔵の神奈川県鍼灸マッサージ指圧師会の資料や各師会の資料に記載された断片的な記録を照合・整理して今回の歴史を制作いたしました。注意深く制作したつもりでおりますが、資料不足は否めませんし諸先輩方の記憶を頼りにしているところもあります。
万が一、誤りがございましたら、ご指摘くださいます様お願いいたします。

明治44年	8月14日　内務省が「鍼術灸術営業取締規則」「按摩術営業取締規則」公布。（明治45年施行）
同年	12月14日　「按摩術鍼術灸術学校講習所指定標準」の訓令、ならびに府県令で取締規則細則を制定。これにより、地方長官（知事）が定めた要件を備えた学校・講習所の卒業生に無試験で免許鑑札を与え、鍼術灸術按摩術を施術していた業者に既得権が認められた。
明治45年	4月 1日　神奈川警察管内鍼術灸術按摩術営業協同組合として発足。
大正 9年	6月13日　本組合より「鶴見警察管内鍼術灸術按摩術営業協同組合」（現・鶴見師会）が分離誕生。　初代鶴見組合長に中山寛治郎就任。
大正10年	4月　創立10周年を迎える。
大正12年	9月 1日　相模湾沖を震源とする関東大震災がおこり、神奈川県では地震による全壊建物4万6千棟、焼失建物23万7千棟、死者3万2千8百人の大災害がもたらされた。
昭和 6年	4月　創立20周年を迎える。
昭和 7年	4月 5日　「按摩術営業取締規則細則改正」（神奈川政令第27号）により、警察の衛生課が主管となる。任意団体であった営業協同組合が、強制的に加入義務のある営業組合となる。これにより「神奈川警察管内鍼術灸術按摩術営業組合」と改称。
昭和12年	7月 7日　日華事変がおこる。国内では国民精神総動員となり、徴用により人員不足から町内にある社会事業団体を統合し厚生団が結成される。調査委員として当組合から津野孫八就任。　神奈川組合長　若月政男。
昭和16年	4月　創立30周年を迎える。
同年	12月8日　日本軍の真珠湾攻撃により、第二次世界大戦勃発。
昭和17年	2月18日　横浜盲人学校の講堂に於いて「神奈川県鍼灸按摩マッサージ組合連合会」の結成大会が行われ、委員長に能条初太郎、副委員長に半田清就任。
同年	11月15日　横浜市中区開港記念会館に於いて「神奈川県鍼灸按摩マッサージ組合連合会」の発会式が盛大に行われ、初代連合会長に半田清就任。この連合会に加入。 神奈川組合長　津野孫八。
昭和18年	3月　第二次世界大戦の国策に協力する為「神奈川県鍼灸按摩術銃後報国隊」が結成され、報国隊第五分隊神奈川班として参加。軍需工場等に業をもって勤労奉仕をする。
昭和19年	5月　「神奈川県鍼灸按摩マッサージ組合連合会」が「神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会」と改名され、加入。この当時、神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会を本部、各地元の師会を支部と称した。
昭和20年	4月　宮井健一郎　支部長就任。
同年	5月29日　横浜大空襲により神奈川区は焦土と化し、宮井支部長、秋本氏らが尽力される。

同年	8月15日　終戦の為、「神奈川県鍼灸按摩術銃後報国隊」は解散。
昭和22年	9月23日　GHQ（連合国最高司令部）より厚生省に対し「鍼灸、あん摩、柔道整復等、医師以外の者の治療行為の禁止」の要望が出され、業界あげての反対運動が起こる。
昭和22年	12月20日　「あん摩、はり、きゅう、柔道整復師等営業法」（法律第217号）公布。 （昭和23年1月1日施行）これにより、主管が警察署から保健所に変更。
昭和23年	3月　神奈川県師会の組織改変があり、単一師会の連盟「神奈川県はり、きゅう、あんま、マッサージ師会連盟」となる。これにより「神奈川区はり、きゅう、あんま師会」と改称。この時より師会制度となる。神奈川師会長　宮井健一郎。
昭和25年	10月16日　「社団法人　神奈川県鍼灸マッサージ師会」が設立され、加入。 初代神奈鍼会長に柏木文治就任。当師会より宮井健一郎が健康保険対策委員長に就任。
昭和26年	4月　創立40周年を迎える。
昭和34年	4月　宮井敬悦　師会長就任。
昭和36年	1月29日　「神奈川県鍼灸マッサージ師会　創立10周年記念式典」が横浜市中区の県立勤労会館、講堂に於いて開催される。
同年	4月　創立50周年を迎える。
同年	5月17日　創立50周年式典が盛大に開催される。
昭和41年	4月　森山勝衛　師会長就任。
昭和44年	4月29日　「神奈川県鍼灸マッサージ師会」が「神奈川県鍼灸マッサージ指圧師会」に改名。これにより、「神奈川区鍼灸マッサージ指圧師会」と改称。
昭和45年	11月18日　「神奈川県鍼灸マッサージ指圧師会　創立20周年記念式典」が横浜市中区の県立勤労会館にて盛大に開催される。 当師会より中西清、（故）宮井健一郎の両名が表彰される。
昭和46年	4月　創立60周年を迎える。
同年	5月12日　創立60周年式典及び祝賀会が菊名南町会館に於いて開催される。 師会長　森山勝衛、副会長　荒巻弘。
昭和47年	4月　島本忠雄　師会長就任。
昭和49年	4月　三觜滋男　師会長就任。
同年	4月　当師会より「港北鍼灸あん摩マッサージ指圧師会」が分離誕生。 初代港北師会長に荒巻弘就任。
昭和55年	「神奈川県鍼灸マッサージ指圧師会　創立30周年記念式典」が盛大に開催され、当師会より小林利男、小森松之助、澤井喜三郎、島本忠雄、三觜滋男の5名が表彰される。　師会長三觜滋男。
昭和56年	4月　創立70周年を迎える。
昭和58年	4月　林　晃　師会長就任。
昭和63年	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」が改正、公布。 （平成2年4月1日施行）
平成元年	4月　島本忠雄　師会長就任。
平成 2年	11月23日　「神奈川県鍼灸マッサージ指圧師会　創立40周年記念式典」が横浜市中区のインターナショナルプラザホテルにて盛大に開催される。
平成 3年	4月　創立80周年を迎える。
同年	6月　創立80周年式典を神奈川区活動ホームに於いて開催される。

平成10年	4月　猪俣功忠　師会長就任。
同年	4月29日　「神奈川県鍼灸マッサージ指圧師会」を「神奈川県鍼灸マッサージ師会」に改名。これにより、「神奈川区鍼灸マッサージ師会」と改称。
平成12年	10月15日　「神奈川県鍼灸マッサージ師会　創立50周年記念式典」が横浜市中区の横浜ランドマークタワー内ロイヤルパークホテル鳳翔の間にて盛大に開催される。 当師会より石橋トシ、猪俣功忠、小宮芳子の3名が表彰される。
平成13年	4月　創立90周年を迎える。
同年	6月13日　創立90周年式典及び祝賀会が横浜市港北区の新横浜国際ホテルにて盛大に開催される。
平成14年	4月　岡部裕志　師会長就任、現在に至る。

●神奈川区鍼灸マッサージ師会歴代会員名簿（順不同、敬称略）●

※師会の分離誕生や会員の転居などにより、他支会の名簿にも氏名が記載されている方もあると思いますが、ご了承下さい。

中山寛治郎	若月　政男	津野　孫八	須藤守次郎	宮井健一郎	黒川　喜政	秋本鉄治郎
小森松之助	森山　勝衛	宮井　敬悦	小林源之助	三觜　滋男	中西　清	澤井喜三郎
千葉　久治	小林　利男	池谷　孝	島本　忠雄	石橋　トシ	中村シズエ	西村　義男
廣田ハツエ	荒巻　弘	大平二美男	大川原和雄	森　務	林　晃	飯田真喜雄
野口　幸秀	伊丹　正義	森山　元弘	会澤　永充	沢井　勝三	佐藤高一郎	原嶋　文一
舟越　幸雄	後藤　高子	稲葉マリ子	木全　茂夫	岩尾　誠志	小宮　芳子	廣瀬　忠久
猪俣　功忠	松田　貢	渡辺　武	木下　興祐	遠藤　幸作	木村　茂郎	三浦　郁子
高橋　勝江	小林　静枝	後藤　公哉	土肥　義和	山本シゲ子	柳澤　睦子	築花　裕一
赤岡　有三	木村　蘭子	広田　初枝	林　徹夫	小林ヤエ子	藤田　豊	吉田　惠子
斉藤恭二郎	岡部　裕志	甘糟　明美	浜崎　五月	原　次男	綱川　章	横塚　政久
渡邊　信子	袴田　正悦	神崎　好喜	秋庭　大樹	杉森　隆子	伊藤　薫	細沼　弘
栗林　成和	新山　茂雄	杉浦　雅憲	山下　一宏	田中　八郎	渡辺千賀子	内山　琢実
金丸　芳子	浦西　均	菊池　英徳	永井　崇	津田　陽子	佐藤　千恵	山内　俊之
金　革紀	三橋友美子	小川　勲夫	工藤　英二	大関　智洋	阿保　智良	田中　賞治
岡本　博行	八木　晶子	小堀　孝浩	佐藤　文子	塚原　美希	齊藤　温子	小林　正宏
高桑健次郎	神谷　広一	道脇　清				

以上108名

（文責：工藤英二）

名称の変遷

明治 45 年 4 月 1 日
神奈川警察管内鍼術灸術
按摩術営業協同組合　創立

大正 9 年 6 月 13 日
鶴見警察管内鍼術灸術
按摩術営業協同組合　分離

昭和 7 年 4 月 5 日
神奈川警察管内鍼術灸術
按摩術営業組合　改称

※ 第二次世界大戦中は
神奈川県鍼灸按摩術銃後報国隊
第五分隊神奈川班として活動

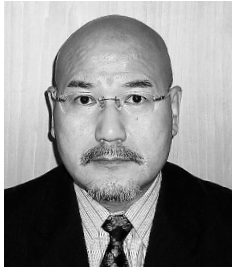
昭和 23 年 3 月
神奈川区はり、きゅう、あんま師会　改称

昭和 25 年 10 月 16 日
神奈川区鍼灸マッサージ師会　改称

昭和 44 年 4 月 29 日
神奈川区鍼灸マッサージ指圧師会　改称

昭和 49 年 4 月
港北鍼灸マッサージ指圧師会　分離

平成 10 年 4 月 29 日
神奈川区鍼灸マッサージ師会　改称



会長　**中川 久茂**

昭和49年4月神奈川師会より別れ、港北鍼灸あん摩マッサージ指圧師会として設立、以来30余年に亘り数多くの会員各位のご協力と、初代会長の荒巻弘先生の指導力により活動をいたしてまいりました。

途中、上部団体の改称に従い港北区鍼灸マッサージ師会と改称致しました。
また、荒巻会長の肝煎りで、有志により本師会の中に港北訪問マッサージケアグループを立ち上げ、地域の、ケアマネジャーや介護事業者と連携し、訪問医療マッサージに取組み港北区や隣接区の医療・福祉に貢献してまいりました。

この度の支部統合合併により、港北師会はその活動を終えますが、今後も地域の医療･福祉への鍼灸マッサージの役割は、益々高まるものと思われます。

私達は、今後もグループの活動を継続し、学術･技術の研鑽に励み浜鍼師会と共に歩んで行きたいと決意いたしております。

昭和49年	4月1日	設立　妙蓮寺町内会館
昭和59年	10月14日	大綱会館に於いて10周年祝賀会
平成6年	11月20日	綱島浜京に於いて20周年祝賀会
平成16年	10月30日	新横浜グレイスホテルに於いて30周年祝賀会

歴代役員

荒巻　弘　大谷恵治　加藤芳保　小西康子　鈴木貞雄
中川久茂　福田晴彦　森　　務

～緑鍼灸マッサージ師会設立の目的～

1)　医療による社会貢献
2)　無資格者との差別化をはかり、有資格者の権利を守る
3)　各種健康保険の利用の簡素化を図る
4)　障害者相互の親睦および信頼を図る

会長　**佐藤 照男**

～緑鍼灸マッサージ師会創立の原点～

初代会長　**若林 邦男**

人生半ばにして視覚を失う辛さと苦しみは、言葉にならないものであります。
残された視力で何ができるかと思い、十指では足りないほどの仕事を数年の間続けてきました。しかし経営者から言われることは、いつも同じでした。

「貴方には向かないようなので、適職を探したほうが良いでしょう。」

昭和42年1月30日、NHKテレビは「或る人生」を放送していました。
その内容は、中途失明者の生活と鍼灸マッサージの技術指導でした。翌日すぐにその施設を訪ね、松井先生に色々なことを相談させていただき、同年4月、横浜市立盲学校理療科に入学することができました。44年同校を卒業し、病院勤めやサウナ等で技術習得をはかり、その後治療院を開院しました。数年経て、マッサージだけでは治療上納得ができず、48年戸塚区にある湘南鍼灸マッサージ学校鍼灸科に入学しました。

そこで3年生になった頃、夜間部から（後に一緒に会を設立することとなる）廣嶋清彦氏が編入してきました。氏は青葉台に住んでおられるとのことで急速に親しくなり、この業の将来や展望について、多く語り合いました。そして卒業後、新しい会を創立しようではないかということで意気投合しました。まず既存のどの組織に入会するかを調査し、会設立のためには隣接2区の会長承認が必要であることがわかり、盲学校の先輩である森先生にお願いして神奈川、港北両会長の快諾を得た後、緑区内の同業者宅を、廣嶋氏と一緒に一軒一軒訪ねて入会を勧めました。

昭和51年6月半ばにはどうにかまとまり、7月頃には創立のめどが立ちました。山田県会長、林横浜市長からはお褒めの言葉をいただきました。7月17日、朝早くから翌日の準備に忙しく、緑区役所会議室の使用許可や、お祝いの記念品や赤飯弁当など、手配に走り回りました。

こうして昭和51年7月18日、真夏の強い日差しの下、創立記念式典が始まりました。山田県会長からは「小田原より田舎だ」と云われ、苦笑しました。議事が進み、会長＝若林邦男、その他理事が選ばれ、総勢18名でのスタートとなりました。会費は2ヶ月に1度、会長自ら会員宅を訪れ、集金しました。そのようにして会員の日常生活を知ったり、技術の向上を目指して学習会などを行い、親睦を深めていきました。（完）

～緑鍼灸マッサージ師会年表および歴代役員～

緑鍼灸マッサージ師会は、昭和51年7月18日に初代会長：若林邦男、理事：廣嶋清彦はじめ数名の先輩により創設された。

S51年　7月18日　設立総会開催
初代役員：会長：若林邦男、
副会長：吉瀬治、
専務理事：廣嶋清彦、
常任理事：恋塚太一、 富樫邦弘、
会計監査：山口登、
相談役：寺田隆善

S52年　6月4日　第1回定期総会開催　（去る1月18日に　新年会を開催）

S53年　4月15日　第2回定期総会開催　於：箱根「大文字荘」
新役員…監査：山本久雄、笠間清恵　（1月16日　新年会）
6月25日、10月22日に老人ホーム「ルンビニ合掌園」を慰問する

S54年　4月22日　第3回定期総会開催　於：十日市場「福寿庵」　（1月16日　新年会）
老人会の慰問は経費がかさむため、今年は見合わせる。
浜、神奈鍼の会費値上げのため、本会も会費を値上げする。
6月16日　慰安旅行　於：箱根「大文字」
7月4日　初研修会

S55年　6月10日　第4回定期総会開催　於：福寿庵　（1月15日　新年会）
神奈鍼入会金値上げのため、本会も5000円とする。

S56年　6月2日　第5回定期総会開催　於：福寿庵
2月3日　創立5周年記念と新年会を同時に行う。
研修会を本格的に始める。偶数月第一火曜日　於：長津田治療院
講師は会員が担当する。会則一部改正…会計監査→監査、専務理事→総務
常任理事→会計とする。

S57年　6月2日　第6回定期総会開催　於：福寿庵　（2月2日　新年会）
新役員…会長：若林邦男、副会長：富樫邦弘、総務：廣嶋清彦、会計：吉瀬治
理事：恋塚太一、望月幸時、監査：山本久雄、笠間清恵
8月4日、10月6日、12月8日に研修会

S59年　5月31日　第8回定期総会開催　於：「岩手家」
新役員…会長：若林邦男、副会長：松本明則、総務･会計：廣嶋清彦
理事：望月幸時、監査：笠間清恵、相談役：寺田隆善

S60年　5月28日　第9回定期総会開催　於：福寿庵
7月10日　横浜万博見学
9月16～17日　一泊の慰安旅行　於：箱根「大文字荘」

S61年　6月10日　第10回定期総会開催　於：福寿庵
新役員…会長：松本明則、副会長：若林邦男、総務・会計：廣嶋清彦
青年女性：佐藤照男、監査：笠間清恵、望月幸時、相談役：寺田隆善
11月3日　創立10周年を祝う　於：岩手屋

S62年　5月19日　第11回定期総会開催　於：岩手屋

12月22日 忘年会
S63年　5月24日　第12回定期総会開催　於：福寿庵
新役員…会長：松本明則、副会長若林邦男、総務：木原博道、会計：佐藤照男、
学術：廣嶋清彦、青年女性：上田善信、監査：大石東
神奈鍼会費を値上げする
平成元年　5月19日　第13回定期総会開催　於：福寿庵
12月5日　忘年会
H2年　5月16日　第14回定期総会開催　於：福寿庵
役　員…会長：松本明則、副会長：若林邦男、総務：木原博道、会計：佐藤照男
学術：廣嶋清彦、青年女性：上田善信、監査：大石東
H3年　5月16日　第15回定期総会開催　於：福寿庵　（1月16日　新年会）
創立15周年記念はとくにせず、20周年を盛大に執り行うこととする。
H4年　5月13日　第16回定期総会開催　於：福寿庵
H5年　新役員…会長：松本明則、副会長：若林邦男、総務：川口京子、会計：佐藤照男
学術：廣嶋清彦、青年女性：上田善信、監査：大石東

H8年　創立20周年記念式典開催　於：横浜関内の中華料理店「紅花」
来賓等40名、都はるみライブ券も付けて盛大に行われた。
役　員…会長：松本明則、副会長：若林邦男、総務：川口京子、会計：佐藤照男
学術：廣嶋清彦、青年女性：上田善信、監査：大石東
H9年　10月　廣嶋清彦先生勇退。青葉台の「ちひろ」にて送別会を行う。
H10年　新役員…会長：松本明則、副会長：吉田勝則、総務：川口京子、、
会計：佐藤照男青年女性：上田善信、学術：三留末男、保険：大渕真、
監査：大石東、相談役：若林邦男
H11年　若林初代会長が現役引退し、当会の相談役のみとなる。
H12年　5月17日　第24回定期総会開催　於：福寿庵
新役員…会長：佐藤照男、副会長：吉田勝則、上田善信、総務：川口京子、
会計：大渕真　学術：三留末男、青年女性：河内香久子、
監査：大石東、松本明則、相談役：若林邦男
新会長の抱負は、1）ボランティアマッサージ、2）研修会、3）保険取り扱いの増加の3つ。
9月10日　ボランティアマッサージ　於：「ふじ寿か園」
9月28日　ウィークリーにボランティアマッサージを掲載
10月12日 タウンニュースにボランティアマッサージを掲載
H13年　5月27日　創立25周年記念式典と第25回定期総会同時開催　於：市ヶ尾「月亭」
表彰状・記念品贈呈5名、斉藤眞、斉藤政吉、松本明則、佐藤照男、立岡昭
H14年　5月12日　第25回定期総会&学術講習会　於：福寿庵
講　師：上田善信氏「古典ってな～に（1)」
新役員…会長：佐藤照男、副会長：吉田勝則、上田善信、総務：川口京子、
会計：大渕真　学術：三留末男、青年女性：河内香久子、
監査：大石東、池田良雄、相談役：若林邦男
H15年　5月25日　第27回定期総会＆学術講習会開催　於：青葉台「上海厨房」
講　師：上田善信氏「古典ってな～に（2)」
新役員…会長：佐藤照男、副会長：吉田勝則、上田善信、総務：川口京子、

会計：大渕真、学術：三留末男、青年女性：河内香久子、
副青年女性：鹿野明則、監査：大石東、池田良雄、相談役：若林邦男
10月5日　ボランティアマッサージ　於：都筑区「都筑の里」　9名参加
12月4日　忘年会
H16年　5月23日　第29回定期総会＆学術講習会開催　於：上海厨房
講　師：小野久雄氏「無資格問題と保険取り扱いの今後について」
10月17日ボランティアマッサージ　於：緑区老人施設「ポポロ」　8名参加
12月4日　忘年会
H17年　5月19日　第30回定期総会開催　於：青葉台「青葉台フォーラム」
新役員…会長：佐藤照男、副会長：上田善信、総務･会計：川口京子、
総務副：太田匡彦、学術：大渕真、学術副：井上尚明、
青年婦人：河内香久子、青年婦人副：川添隆
監査：大石東、相談役：若林邦男
9月11日　創立30周年記念式典　於：青葉台フォーラム　来賓等50名出席
第1部：　記念講演―講師：筑丸志津子Dr.（日本皮膚科学会専門医）
第2部：　記念式典―20年以上在籍者4名に表彰状と記念品を贈呈
特別講演：若林邦男氏「緑鍼灸マッサージ師会30年の歩み」
10月16日ボランティアマッサージ　於：緑区老人保健施設「みどりの杜」　11名参加
12月14日忘年会
H18年　5月17日　第31回定期総会開催　於：青葉台フォーラム
新役員…会長：佐藤照男、副会長：上田善信、総務･会計：川口京子、
総務副：太田匡彦、学術：大渕真、学術副：井上尚明、
青年婦人：川添隆、広報：河内香久子、広報副：藤本温
監査：大石東、三留末男、相談役：若林邦男
4月10日、8月1日、12月1日　広報紙みどり通信発行（以降年3~4回）
7月17日　第1回親睦会　釣り＆バーベキュー大会　於：「都立大井埠頭なぎさの森」
11月5日　ボランティアマッサージ　於：青葉区有料老人ホーム「青葉台桜湯園」11名参加
12月9日　学術講習会「普通救命・心肺蘇生の実技」　於：ひまわり治療院
講　師：都筑消防署職員
H19年　4月1日　若林邦男初代会長勇退
5月16日　第32回定期総会開催　於：青葉台フォーラム
新役員…会長：佐藤照男、副会長：上田善信、総務･会計：川口京子、
総務副：太田匡彦、学術：大渕真、学術副：井上尚明、
青年婦人：川添隆、広報：河内香久子、広報副：藤本温
監査：斉藤真、三留末男、相談役：大石東
7月29日　第2回親睦会　釣り＆バーベキュー大会　於：南足柄市「狩川渓谷ます釣り場」
9月　9日　ボランティアマッサージ　於：老人福祉施設
「フォーシーズンズビラこもれび」　15名参加
10月10日学術講習会「循環器疾患の予防知識」
講　師：藤倉寿則Dr.（ふじくら循環器科院長）

以降、現在に至る。

平成19年10月30日

創設

明治45年1月25日、創立者総代　金泉幸善氏　により、戸部警察署管内鍼術灸術按摩術営業協同組合届けを提出し、2月10日付を以って許可を得る。

昭和7年4月5日付神奈川政令第27号　「按摩術営業取締り規則施行細則改正」に伴い、戸部警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合に修正、7月20日に出願届を提出し8月4日に許可を得る。　10月1日に戸部警察署に於いて創立総会を開催し、強制組合法に改め、その会議で組合役員名簿を作成した。初期の頃は、「会長」ではなく「組合長」が代表を務めていた。

会長　内田 豊彦

西区鍼灸マッサージ師会　歴代役員一覧表

期	年　月	組合長	副組合長	会計
第 1 期	昭和 14 年 4 月～昭和 16 年 3 月	能條初太郎	清水太郎	鈴木末吉
第 2 期	昭和 10 年 3 月～昭和 12 年 3 月	能條初太郎	石井准治郎	鈴木末吉
第 3 期	昭和 12 年 4 月～昭和 14 年 3 月	能條初太郎	金子善太郎	鈴木末吉
第 4 期	昭和 14 年 4 月～昭和 16 年 3 月	能條初太郎	木村重吉	鈴木末吉
第 5～7 期	昭和 16 年 4 月～昭和 21 年 3 月	能條初太郎	石井准治郎	鈴木末吉

期	年　月	会長	副会長	会計
第 8～11 期	昭和 21 年 4 月～昭和 29 年 3 月	内田常太郎	能條初太郎	能條初太郎
第 12 期	昭和 29 年 4 月～昭和 30 年 4 月	能條初太郎 次点勝村鉄也	内田常太郎	勝村鉄也 次点平田義孝
※昭和 29 年 4 月 27 日の能條会長の辞任に伴い、会長が次点の勝村氏が就任し、空席になった会計が次点の平田氏が就任した。				
第 13～14 期	昭和 30 年 4 月～昭和 33 年 2 月	勝村鉄也	内田常太郎	石井健之
※総会は例年 4 月に行うが、永年共同師会であった中区に同業者が多数増え分離することになり、3 月 1 日に中区保健所に於いて発会式を行うことになり、よって繰り上げて 2 月 26 日に総会を開催した。				
第 15 期	昭和 33 年 4 月～昭和 34 年 3 月	勝村鉄也	角田豊重	石井健之
※横浜鍼灸マッサージ師会連合会 理事　平田義孝　　副会長　角田豊重　　会計　石井健之				
※横浜鍼灸マッサージ師会連合会 顧問　能條初太郎　　副会長　勝村鉄也　　監事　内田常太郎				

第 16～17 期	昭和 34 年 4 月～昭和 38 年 3 月	平田義孝	角田豊重	石井健之
第 18～21 期	昭和 41 年 4 月～昭和 49 年 3 月	平田義孝	勝村鉄也	石井健之
第 22～24 期	昭和 49 年 4 月～昭和 55 年 3 月	石井健之	内田重夫	平田一男
第 25～29 期	昭和 55 年 4 月～平成 2 年 3 月	石井健之	内田重夫	角田敏男
※平成 2 年 3 月末日　石井会長が辞職。後任に副会長の内田氏を会長に推薦。				
第 30～31 期	平成 2 年 4 月～平成 6 年 3 月	内田重夫	後藤忠勝	角田敏男

期	年　月	会長	副会長、厚生	会計	総務	保険
第 32～34 期	平成 6 年 4 月～平成 12 年 3 月	内田重夫	後藤忠勝	角田敏男	伊藤弘	角田敏男
※平成 11 年　後藤忠勝副会長が退会						
第 35 期	平成 12 年 4 月～平成 13 年 5 月	内田重夫	副会長 角田敏男	副会長 伊藤弘	小玉隆司	宮川文子
平成 13 年 5 月、西師会総会にて内田重夫会長が体調不良の為会長を辞職、役員改選を行う。						
第 36～37 期	平成 13 年 5 月～平成 16 年 3 月	伊藤弘	副会長、会計 角田敏男	総務 内田豊彦	業務 小玉隆司	厚生、婦人 宮川文子
第 38 期	平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	内田豊彦	副会長 角田敏男	総務、会計 宮川文子	事業 小玉隆司	厚生 伊藤弘
第 39 期	平成 18 年 4 月～	内田豊彦	角田敏男	谷川聖一	小玉隆司	伊藤弘

祝　宴　昭和16年4月9日　　創立30周年祝い。
（以降、50周年・70周年など何もなし）

その他　昭和32年3月　　中師会が分離。

第35期の小玉氏と宮川氏は、肩書きの無い役員。
（役職の記載の記録が残っていません。）

会長　太田 耕作

この度横浜市鍼灸マッサージ師会統一に伴い本師会の歴史を浜鍼記念誌に掲載させて頂きますが、初代会長からの定かな資料が保管されていないため不詳の点もありますが、50年の歩みを記載いたします。

中区鍼灸マッサージ師会が誕生したのは今から50年前の昭和32年3月1日（石橋総理大臣の時）中保健所（中区山下町）講堂にて創立総会を開催いたしました。

本師会の初期の創設は明治44年8月15日内務省発布にさかのぼります。時の総理大臣は西園寺公望、今から数えますと96年になります。当時の会費は1ヶ月20銭（現在は3,300円）会員数は伊勢佐木組合95名、加賀町組合10名、山手磯子組合37名、当時社会的な弾圧や抵抗等にあいながらも先輩諸氏の努力により発展し続け、明治、大正、昭和へと受け継がれてまいりました。

先の大戦横浜大空襲（昭和20年5月29日）により町は焦土と化し業者も数名という情況となりました。荒廃の中から僅かの人々は西区の組合に合流し西中はりきゅうあんまマッサージ師会となり、各保健所の指導監督のもとに中区の会員も徐々に増えてまいりました。その後西師会の理解とご協力により、昭和32年3月1日中師会が誕生いたしました。初代会長に高山一雄先生が就任され、草創期のため大変ご苦労されたと聞いております。

昭和42年4月10日勤労会館（中区）にて第2代目佐藤保之会長のもとで創立10周年記念式典を開催、昭和52年5月15日山下町労働福祉センターにて仁戸部隆広会長のもとで創立20周年記念式典を開催、昭和62年10月4日労働福祉センターにて関屋隣之助会長のもとで創立30周年記念式典を開催、県、各区師会長、中保健所、中区医師会長、中区歯科医師会長、中区薬剤師会長のご臨席を頂きました。

平成9年10月4日神奈川労働プラザ9Fレストランにて太田耕作会長のもとで創立40周年記念式典を開催、そして今回平成19年9月30日ホテル横浜ガーデンにて太田耕作会長のもとで50周年記念式典を開催、本師会50周年の節目を迎えることができました。これも一重に歴代の会長、役員、理事、会員皆様の支援と協力の賜物と心より感謝申し上げる次第でございます。

今後も会員一丸となり地域医療の一翼を担うべく先輩諸氏より受け継ぎました伝統を守りさらに精進してまいりたいと思います。

会長　荒井　務

この度、神奈川県鍼灸マッサージ師会の第2ブッロックである11師会が横浜市鍼灸マッサージ師会に合併するにあたり、南区鍼灸マッサージ師会の歴史、業界の先人先輩が築いて来た歴史を後世に残すべき整理した。

横浜市南区鍼灸マッサージ師会の歴史は前身である大岡警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合が昭和7年6月5日に大岡警察署管内所轄により結成された。前身を含むと正確には創立75年の歴史となる。この以前の業界の歴史は残念ながら資料がなく不明である。

その後、昭和18年5月に神奈川県鍼灸按摩師会（本部師会）が結成されそれに伴い大岡警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合から神奈川県鍼灸按摩師会大岡支部を結成に至った。しかし何かのトラブルから役員を辞任本部師会から離脱し、その後大岡支部を廃却し南区鍼灸按摩師会と改称して本部師会に復帰した経緯の記録があった。その当時は戦時中であり記録での時代背景と要旨は次の通りである。

昭和 7年	8月18日	大岡警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合の設立認可
昭和18年	5月　日	神奈川県鍼灸按摩師会　結成　会長　半田　清が就任
昭和18年	5月　日	神奈川県鍼灸按摩師会大岡支部　結成
昭和19年	3月25日	神奈川県鍼灸按摩師会大岡支部　総会　役員選挙
		支部長　手塚昇栄　　副支部長　関　政治　就任
昭和19年	11月25日	神奈川県鍼灸按摩師会との離脱決議。
昭和19年	9月	神奈川県鍼灸按摩師会　会長　半田　清　以下役員全員辞任
昭和19年	11月25日	役員会にて一時、神奈川県鍼灸按マ師会との連絡を中止する決議。
昭和20年	4月25日	罹災者に関する協議事項
		藤ノ木、井土ヶ谷町大爆撃を受け田辺幸七、青木正吉、志田安蔵氏等に対し一般支部費より金1円衣類食器等を贈り、手塚昇栄　関正治より金50円を贈り之を訪問す。
昭和20年	5月29日	市内戦災に関する件
		午前9時横浜市全土は焦土と化す。手塚昇栄、関正治両氏は必死となり支部会員を訪問。
昭和21年	11月 9日	本部師会へ再び入会の件
		戸部支部長　能條氏来訪す、再び師会へ入会懇請の趣旨を申述す。
昭和22年	2月	法律第217号按摩鍼灸柔道整復等営業法公布。
		大岡警察署管内管轄が南保健所管轄になる。
昭和22年	12月 7日	本部師会へ再び入会への決議事項
		戸部支部長　能條氏来訪再々入会懇請を懇請す、依って顧問　大野氏ほか
		関、福原、荒井諸氏の協議の結果翌年総会を開き解答する旨を約し解散す。
昭和23年	3月 21日	大岡支部を廃却し4月1日より南区はりきゅうあんま師会と改称す。
		神奈川県鍼灸按摩師会に復帰する。
昭和23年	8月 1日	横浜市内師会長会議
		西区能條氏宅にて横浜市内各区の師会長及び連盟会長参集。
		連盟会長　柏木文治　総務部長　須藤亀之助　副会長　能條初太郎
		神奈川師会長　宮居健一　鶴見師会長　海老塚多三郎
		戸部師会長　内田常太郎　磯子師会長　山崎治助

		南区師会長　　手塚　栄
昭和24年	5月30日～10月10日	
	再教育講習会実施す。	
昭和30年	4月	療術師等の問題起き業権擁護のため断食闘争を国会前で行う。
		石井新太郎氏参加する。
昭和33年	4月15日	創立10周年記念式典を南区日枝町お三の宮にて挙行。
昭和43年	4月18日	創立20周年記念式典を南区板東橋岩根館にて挙行。
昭和44年	4月 1日	横浜市条令により南区から港南区分離誕生。
昭和46年	5月	総会にて港南区鍼灸マッサージ師会分離誕生。
		初代会長　藤ケ崎宏　就任す。
昭和53年	10月22日	創立30周年記念式典を南区通町村越にて挙行。
昭和63年	3月27日	創立40周年記念式典を南区通町村越にて挙行。
昭和62年	5月 8日	（社）全日本鍼灸マッサージ師会創立40周年記念大会にて
		石井新太郎氏　功労賞を受賞す。（東京赤坂プリンスホテルにて）
平成 4年	12月11日	齋藤幹一氏　自立更生により厚生大臣賞を受賞す。
平成10年	5月18日	小林留治氏　法施行50周年記念・全鍼師会会長賞を受賞す。
平成10年	9月27日	創立50周年記念式典をニューオオタニイン横浜にて挙行。
平成20年	2月10日	創立60周年記念式典を横浜ガーデンホテルにて挙行。

大岡警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合　役員歴代一覧表

昭和 7 年 8 月 18 日認可

組合設立第 1 回総会	組合長	副組合長	会　計	監　事	幹　事
昭和 7 年 6 月 5 日	大野　忠八	平井其之助	平井其之助	手塚　昇栄	松岡　菊雄

組合設立認可後　総会	組合長	副組合長	会　計	監　事	理　事	理　事	理　事
昭和 7 年 9 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	白井銀次郎	宍倉　留吉	手塚　昇栄	桜井銀次郎	出澤　武雄
昭和 8 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	白井銀次郎	宍倉　留吉	手塚　昇栄	桜井銀次郎	出澤　武雄
昭和 9 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	白井銀次郎	宍倉　留吉	秋元　昌栄	桜井銀次郎	平田　義孝
昭和 10 年 3 月 15 日	白井銀次郎	平井其之助	日高由太郎	宍倉　留吉	秋元　昌栄	桜井銀次郎	平田　義孝
昭和 12 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	桜井銀次郎	平塚　昇栄	平田　義孝	伊藤　昌栄	
昭和 13 年 3 月 20 日	大野　忠八	平井其之助	桜井銀次郎	平塚　昇栄	平田　義孝	伊藤　昌栄	
昭和 14 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	桜井銀次郎	佐藤　春嶺	田辺　幸七	志田　安蔵	
昭和 15 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	桜井銀次郎	佐藤　春嶺	田辺　幸七	志田　安蔵	
昭和 16 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	桜井銀次郎	佐藤　春嶺	高橋正太郎	志田　安蔵	益田　英史
昭和 17 年 3 月 25 日	大野　忠八	平井其之助	桜井銀次郎	佐藤　春嶺	高橋正太郎	志田　安蔵	益田　英史
昭和 18 年 2 月 25 日	大野　忠八	関　　政治	手塚　昇栄	狩野　　勇	高橋正太郎 出沢　武雄	志田　安蔵 伊藤　昌栄	益田　英史

神奈川県鍼灸按摩師会大岡支部　役員歴代一覧表

大岡支部　総会	組合長	副組合長	会　計	監　事	理　事	理　事	理　事
昭和 19 年 3 月 25 日 ～22 年	大野　忠八	関　　政治	手塚　昇栄	狩野　　勇	高橋正太郎 出沢　武雄	志田　安蔵 伊藤　昌栄	益田　英史

南区鍼灸マッサージ師会　歴代役員一覧表　1

	会　長	副会長	総務部長 総務副部長	業権擁護部 長・副部長	経理部長	保険部長	厚生部長 厚生副部長	文化部長 文化副部長
昭和 23 年	手塚　昇栄	福原喜八郎			神戸銀次郎			
	理　事　：　荒井仙太郎　吉川　弘　石井新太郎　工藤敏彦　小柴　保　石塚正雄　神戸錦五郎							
24 年～ 27 年	福原喜八郎	空白は記録不明			荒井仙太郎			
28 年～ 30 年	福原喜八郎				浦島　　浩			
31 年～ 32 年	福原喜八郎				岩本　耕平			
33 年～ 38 年	石井新太郎				小林　留治			
39 年～ 40 年	石井新太郎				小林　留治			
41 年～ 42 年	岩本　耕平	船田　大吉	蒲谷　悦三 光森　一男	田上　利昭	館林　清治	土生　　哲	齋藤　幹一 上杉　知範	藤ケ崎　宏 金子憲太郎
43 年～ 44 年	岩本　耕平	蒲谷　悦三 小林　留治	蒲谷　悦三 齋藤　幹一	金子憲太郎 上杉　知範	荻原　輝雄	土生　　哲	小林　留治 斉藤　　斉	藤ヶ崎　宏 田上　利昭
45 年～ 46 年	岩本　耕平	小林　留治 藤ヶ崎　宏	藤ヶ崎　宏 金成　豊十	齋藤　幹一 上杉　知範	荻原　輝雄	斉藤　　斉	金子憲太郎 福原　　肇	土生　　哲 田上　利昭
47 年～ 48 年	小林　留治	蒲谷　悦三	荻原　輝雄	齋藤　幹一	福原　　肇	土生　　哲	池田外喜子	石原　光一
49 年～ 50 年	小林　留治	荻原　輝雄	荻原　輝雄 亀岡美代子	齋藤　幹一 光森　一男	福原　　肇	土生　　哲	池田外喜子	金子憲太郎 工藤　敏彦
51 年～ 52 年	荻原　輝雄	土井　　哲	亀岡美代子	齋藤　幹一	福原　　肇		出井　数子	工藤　敏彦 小森フヂ子
53 年～ 54 年	小林　留治	齋藤　幹一	齋藤　幹一 高橋　幸江	森　　一郎	齋藤マサヱ	柏木　太一	西田喜美子	館林喜美子
55 年～ 56 年	小林　留治	齋藤　幹一	齋藤マサヱ	森　　一郎	高橋　幸江	柏木　太一	西田喜美子	館林喜美子 宮崎　光男
57 年～ 58 年	小林　留治	齋藤　幹一	齋藤マサヱ	森　　一郎	高橋　幸江	柏木　太一 荻原　正博	西田喜美子	館林喜美子 宮崎　光男
59 年～ 60 年	小林　留治	齋藤　幹一	齋藤マサヱ 宇佐美徹郎	森　　一郎	高橋　幸江	荻原　正博	宮崎　光男	館林喜美子
61 年	小林　留治	齋藤　幹一	荻原　正博	森　　一郎	齋藤マサヱ	宇佐美徹郎	宮崎　光男	館林喜美子
62 年	小林　留治	齋藤　幹一	荻原　正博	森　　一郎	齋藤マサヱ	白井　元規	宮崎　光男	館林喜美子
63 年	小林　留治	齋藤　幹一	荻原　正博	齋藤　幹一	齋藤マサヱ	荒井　　務	白井　元規	館林喜美子 宮崎　光男

	会　長	副会長	総務部長	業務部長	経理部長	保険部長	厚生部長	青年女性部長
平成元年	小林　留治	齋藤　幹一	荻原　正博	齋藤　幹一	齋藤マサヱ	荒井　　務	白井　元規	宮崎　光男
2年～6年	小林　留治	荻原　正博	齋藤マサヱ	荻原　正博	荒井　　務	小柴　　元	白井　元規	宮崎　光男
7年～9年	荒井　　務	荻原　正博	齋藤マサヱ	荻原　正博	荒井　　務	小柴　　元	白井　元規	宮崎　光男
10年～19年	荒井　　務	荻原　正博	齋藤マサヱ	荻原　正博	荒井　　務	小柴　　元	宮崎　光男	白井　好江

南区鍼灸マッサージ師会歴代役員一覧表　2

	経理監査	経理監査	相談役	相談役	相談役	相談役
昭和23年	佐藤　春嶺	関　　政治	大野　忠七	福原賢太郎		
24年～29年	記録不明					
30年～32年	館林　清治					
33年	光森　一男					
34年～36年	記録不明					
37年～40年	福原喜八郎	船田　大吉				
41年～42年	小林　留治		石井新太郎	福原喜八郎	半田　　清	
43年～44年	石井新太郎		半田　　清	船田　大吉		
45年～46年	蒲谷　悦三					
47年～48年	岩本　耕平		岩本　耕平	君嶋勝五郎	半田　　清	
49年～50年	石井新太郎		岩本　耕平	半田　　清		
51年～52年	小林　留治		岩本　耕平			

	監　事	監　事	相談役	相談役	相談役	相談役
昭和53年	石塚　正雄	石井新太郎				
54年	石塚　正雄	石井新太郎				
55年～56年	石塚　正雄	石井新太郎				
57年～60年	石塚　正雄	柏木　太一	石井新太郎			
61年	柏木　太一					
62年	柏木　太一					
63年	柏木　太一	荻原　輝雄	石井新太郎	森　　一郎		
平成元年	柏木　太一	荻原　輝雄	石井新太郎	森　　一郎		
2年～7年	柏木　太一	荻原　輝雄	石井新太郎	森　　一郎	館林喜美子	
8年～9年	柏木　太一	荻原　輝雄	石井新太郎	森　　一郎	館林喜美子	齋藤　幹一
10年～13年	柏木　太一	荻原　輝雄	石井新太郎	館林喜美子	齋藤　幹一	
14年～17年	柏木　太一	荻原　輝雄	館林喜美子	齋藤　幹一		
18年～19年	柏木　太一	福原　　肇	館林喜美子	齋藤　幹一		

南区鍼灸マッサージ師会の研修会は昭和 50 年以前と昭和 52 年～55 年は不明。昭和 62 年から南区医師会より講師を派遣。

南区鍼灸マッサージ師会　研修会一覧

年 月 日	会　場	演　題	講 師	備 考
S51.8.29	新川町町内会館	歯科領域における針麻酔の治験例	君嶋忠勝	湘南鍼灸マッサージ学校校　長
S56.7.26	新川町町内会館	神経痛の理論と実際	君嶋忠勝	
S57.10.3	上大岡第一町内会館	スポーツ傷害に対する理論と実際	君嶋忠勝	
S58.8.14	新川町町内会館	頚肩腕症候群に対する基礎と臨床	君嶋忠勝	
S59.6.17	上大岡第一町内会館	五十肩の基礎と臨床	君嶋忠勝	
S60.8.4	新川町町内会館	顔面神経麻痺の基礎と臨床	君嶋忠勝	
S61.7.20	新川町町内会館	変形膝関節症の基礎と臨床	君嶋忠勝	
S62.9.27	新川町町内会館	婦人科疾患による腰痛ついて	升田　博	吉野町病院院長
S63.9.25	新川町町内会館	成人病について	鳥山直行	南区医師会会長
H 1.8.27	横浜青年館	脳血管障害について	鳥山直行	南区医師会会長
H 2.9.2	県地域労働文化会館	肝臓疾患について	鳥山直行	南区医師会会長
H 3.6.9	横浜青年館	糖尿病について	鳥山直温	南区医師会幹事
H 4.6.14	横浜青年館	心臓病について	鳥山直温	南区医師会幹事
H 5.7.4	横浜青年館	動脈硬化と心臓病について	鳥山直温	南区医師会幹事
H 6.6.30	横浜青年館	呼吸器経疾患について・そのⅠ	鳥山直樹	国立ｶﾞﾝｾﾝﾀｰ呼吸器科
H 7.6.4	横浜青年館	呼吸器経疾患について・そのⅡ	鳥山直樹	国立ｶﾞﾝｾﾝﾀｰ呼吸器科
H 8.6.30	横浜青年館	医療界の最近の話題	橋本禎夫	南区医師会会長
H 9. 6.8	横浜青年館	骨粗鬆症の治療と予防について	児島瑞夫	南区医師会会長
H10.6.7	横浜青年館	緊急処置とテーピング･実技も含む	児島瑞夫	南区医師会会長
H11.6.6	横浜青年館	瘤（こぶ）の話	児島瑞夫	南区医師会会長
H12.6.4	横浜地区ｾﾝﾀｰ	生活習慣病について	児島瑞夫	南区医師会会長
H13.7.21	大橋町町内会館	痛みの治療について	菊池幸恵	睦町ｸﾘﾆｯｸ院長
H14.7.7	大橋町町内会館	緩和医療について	菊池幸恵	睦町ｸﾘﾆｯｸ院長
H15.6.22	大橋町町内会館	胃腸の癌について	清水保雄	清水医院院長
H16.6.22	大橋町町内会館	頭痛	鵜養　宏	鵜養医院院長
H17.6.12	大橋町町内会館	ﾒﾀﾎﾟﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ・あなたは大丈夫ですか	西連寺完茂	南区医師会幹事
H18.6.11	大橋町町内会館	糖尿病の怖い理由（わけ）合併症の話	中村俊彦	下田医院
H19.6.10	大橋町町内会館	骨粗鬆症と呼吸器疾患について	東都千春	あずま医院院長

会長　西岡 拓夫

横浜市に港南区が誕生し1年後、港南区に在住する鍼灸マッサージ師は、昭和46年3月まで所属していた南区鍼灸マッサージ師会より独立し、同年10月18日、港南区上大岡第1町内会館において創立総会を開催いたしました。

この日の総会には港南保健所の田村保健所長をはじめ神奈川県鍼灸マッサージ師会の山田会長、横浜市鍼灸マッサージ師会の岩本会長並びに各区より師会長のご臨席を賜り南区師会理事諸先生方のご協力をいただきまして無事に行わせていただきました。この総会ではまず来賓諸先生の有り難いご祝辞や激励のお言葉に不慣れな私どもいたく感銘いたしたものでございます。

理事においては規約の承認、役員の承認、この日選ばれた役員は増田英夫、神戸銀五郎、金成豊十、田上利昭及び藤ヶ崎宏の5名で、会長は藤ヶ崎宏が受け持つことになりました。

事業につきましては、総会、研修会、忘年会及び旅行などを行うことといたしました。そして幸いなことに昭和50年代に入り、当時の港南区医師会の会長の宮川先生より研修会についての呼びかけがあり、その後は毎年研修会の講師を医師会より派遣してくださることになりました。

そして昭和60年代に入る頃には会員も徐々に増え役員も入れ替わり、10年、20年の節目の年には控え目ながら記念行事を行わせていただきました。

やがて平成6年には藤ヶ崎が会長職を辞し、二代会長に西岡拓夫氏が就任されました。それからの港南師会は本会運営の面ばかりではなく、上部団体への協力、他師会との交際など、徐々に充実してまいりました。

そして平成13年10月14日には本会創立30周年記念祝賀会を西岡会長のもと、磯子プリンスにおいて開催させていただきました。この日は来賓として、衆議院議員の菅義偉先生、市会議員の田野井一雄先生をはじめ全鍼師会の杉田会長、神奈川県師会の同じく杉田会長、横浜師会の菊池会長並びに各区の師会会長そして南師会の理事諸先生のご臨席を賜り、また、関係者皆様のご協力をいただきまして和やかなうちにめでたく行わせていただきました。

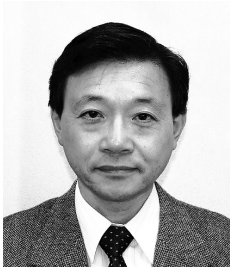
本会の会員数は初め16名でしたが、平成19年3月現在は29名であります。また、これまでに本会に籍をおいた方々は57名となっております。

ただいまの役員は、会長　西岡拓夫、副会長　小沢繁之、経理部長　三浦春子、保険部長煙上啓介および藤ヶ崎宏の5名でございます。そして今までに役員としてご協力いただいた方は、織茂好一、田中徳雄、大岩節子、荒井さく、磯野正勝、中家裕子、長岡勝巳、また議長さんには堀越岩吉、福島勝弘の皆様でございます。

最後になり恐縮でございますが、ここに多年に渡る港南師会に対する諸先生のご指導ご鞭撻を深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

この度の横浜師会の組織改革が必ず業会の発展と資質向上に繋がるものと堅く信じ、今後の諸先生のご活躍とご健康、ご多幸を心から祈念し終わらせていただきます。

（文責：藤ヶ崎　宏）



会長　中　博

平成19年度をもちまして、磯子金沢鍼灸マッサージ師会は設立83周年をむかえました。平成20年度、横浜市師会の大改革に伴いその役割を終えるにあたり、大正時代より、昭和、平成にわたり地域社会の健康と福祉に貢献してまいりました小さな業団の軌跡をここにまとめ、ご紹介したいと思います。なお、取材に関しましては注意深く先輩の先生方にお尋ねし、正確を期しているつもりですが、なにぶんにも大正時代からの話となりますと資料が乏しく、調査が大変むずかしい部分がありました。万が一誤りがあった場合は、ご指摘ください。

当師会の歴史は大正13年に設立されました「八幡橋鍼灸按摩術営業組合」に始まります。設立時の組合員は26名、組合長は高野柳三先生となっています。大正13年1月31日に設立後2月23日に認可されています。「認可」が当局からどのようになされたのかは不明です。その前年大正12年（1923）9月1日、関東南部を襲った大地震により、死者・行方不明者14万2千8百人、全壊建物12万8千棟、全焼建物44万7千棟という未曾有の大災害がもたらされました。おそらくはまだ完全に復旧したとはいえない状況の中、当師会は産声を上げました。

当時横浜市の人口は389，700人でした。

昭和7年になり、当業界の監督を警察が行う制度になり、「磯子警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合」という名称の団体になっています。組合長は平井明治先生（元師会長平井基一先生のお父様）でした。昭和7年時点の磯子区の人口は、35，411人となっています。

昭和17年10月に「神奈川県鍼灸按摩マッサージ術営業組合聯合会」が結成され、2年後の昭和19年5月「神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会」と改称されました。この団体が後の上部団体となっていきます。

昭和19年5月に、「神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会」が設立されたのと同時に、ここに加入しています。戦時色が濃くなって行く中、同年6月には「神奈川県鍼灸按銃後報国隊」が編成され加入しています。昭和19年では磯子区の人口は96，546人となっています。

昭和20年8月15日の終戦で、「神奈川県鍼灸按銃後報国隊」は解散しました。戦後の混乱期が始まったと思われます。アメリカの統治下にあった日本におきまして、私達の業界は、大事件に巻き込まれることになります。

当時、連合軍進駐軍下の日本ではGHQから出される指令が最も権力があり、そのGHQから、日本国厚生省に対し「鍼灸をはじめ、あん摩、柔道整復等、医師以外の者の治療行為の禁止」の要望が出され、厚生省はこれを医療制度審議会に諮問しました。昭和22年9月23日のことです。

このGHQの禁止要望により、鍼灸マッサージ業界と鍼灸師・マッサージ師は存亡の危機を迎えることになりました。

進駐した米国人の目には、鍼灸・按摩マッサージ指圧が不衛生で非科学的な、野蛮な東洋人の風習とうつったのでしょう。これに対し、すぐさま業界をあげて誤解を解く為の運動が展開されました。この結果、昭和22年12月20日、「あん摩、はり、きゅう、柔道整復等営業法」として身分法を確立することができ、業界自体の消滅という事態は回避されました。

昭和23年3月25日、「磯子はり、きゅう、あんま師会」（これより師会制度となる）が設立されました。設立時の会長は山崎治助先生（元師会長、山崎奇麿先生のお父様）。同年5月15日に、磯子区の一部から金沢区が新設されました。昭和23年の磯子区の人口は59，879人、金沢区の人口は51，765人となっています。

昭和25年10月16日に、「社団法人神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会」が設立されました。同年4月、「磯子はり、きゅう、あんま師会」は「磯子鍼灸按摩マッサージ師会」と改称され、戦争直後の混乱から、新しい体制へと動き始めました。当時の会長は、小野恒一先生（前師会長、小野　健一郎先生のお父様）でした。昭和25年の磯子区の人口は62，343人、金沢区の人口は56，040人となっています。

金沢区が新設されてから12年後の昭和37年5月に金沢区から西村兼雄先生がはじめて「磯子鍼灸按摩マッサージ師会」に入会し、後に磯子区、金沢区を合わせた団体となっていくさきがけとなりました。

昭和53年4月2日には、磯子鍼灸マッサージ師会と改称しました。同年の磯子区の人口は157，825人、金沢区の人口は143，566人まで増加しています。

昭和62年には、磯子金沢鍼灸マッサージ師会と改称しました。同年の磯子区の人口は166120人、金沢区の人口は188213人となりました。

平成16年11月現在、会員数は35名となっています。

技能功労賞……昭和42年に横浜市技能功労者要綱が制定され、同年11月に第一回横浜市技能功労者表彰が行われた。対象は30年以上の経験を有し、満60才以上で技能職者の模範となるもの。

〈受賞者〉

昭和43年11月　小野　恒一 先生
昭和49年11月　小早川 浜男 先生
昭和54年11月　杉本 栄之助 先生
昭和57年11月　田中　コト 先生
昭和60年11月　六浦　雲渓 先生
昭和63年11月　平井　基一 先生
平成10年11月　山崎　奇麿 先生

【年表】

大正13年（1924年）	横浜市の人口は389，700人
大正13年	1月31日　設立
	2月23日　認可
	設立時名称八幡橋鍼灸按摩術営業組合
	組合長　高野　柳三先生
	設立総員　26名
昭和3年	4月　小早川　浜男先生　組合長就任
昭和7年	磯子区の人口は35，411人
昭和7年	6月16日　設立
	設立時名称　磯子警察署管内鍼術灸術按摩術営業組合
	組合長　平井　明治先生
	（元師会長、平井基一先生のお父様）
昭和17年	10月　神奈川県鍼灸按摩マッサージ術営業組合聯合会が結成され、
昭和19年	5月　神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会と改名される
昭和19年	磯子区の人口は96，546人
昭和19年	5月　神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会に加入
昭和19年	6月から神奈川県鍼灸按銃後報国隊が編成され加入
昭和20年	8月15日の終戦で解散
昭和23年	磯子区の人口は59，879人

昭和23年	5月15日磯子区の一部から金沢区が新設される。
昭和23年	金沢区の人口は51，765人
昭和23年	3月25日
	設立時名称　磯子はり、きゅう、あんま師会
	（これより師会制度となる）
	会　長　　山崎　治助先生
	（元師会長、山崎奇麿先生のお父様）
昭和25年	10月16日 社団法人神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会設立
昭和25年	磯子区の人口は62，343人
昭和25年	金沢区の人口は56，040人
昭和25年	4月改称
	新名称　　磯子鍼灸按摩マッサージ師会
	会　長　　小野　恒一先生
	（前師会長、小野　健一郎先生のお父様）
昭和37年	5月に金沢区から西村兼雄先生がはじめて入会
昭和47年	4月　　杉本　栄之助先生　師会長就任
昭和51年	4月　　平井　基一　先生　師会長就任
昭和53年	磯子区の人口は157，825人
昭和53年	金沢区の人口は143，566人
昭和53年	4月2日
	新名称　　磯子鍼灸マッサージ師会
昭和55年	4月　　赤松　茂　先生　　師会長就任
昭和59年	4月　　山崎　奇麿先生　　師会長就任
昭和62年	磯子区の人口は166120人
昭和62年	金沢区の人口は188213人
昭和62年	
	新名称　　磯子金沢鍼灸マッサージ師会
平成14年	4月　　小野　健一郎先生　師会長就任
平成16年	4月　　中　　博　先生　　師会長就任

（文責：松野　徹）

会長　**細谷 勝美**

この度、横浜市鍼灸マッサージ師会が神奈川県鍼灸マッサージ師会へ統合する事になりました。

当師会、昭和36年4月創立総会に於いて創立者・細谷勝美により発足いたしました。

会員数13名
初代会長　細谷勝美
副 会 長　滝川通典
会　　計　御厨ひさ
総　　務　細谷千恵子

同年7月20日発会式を行いました。横浜市鍼灸マッサージ師会、神奈川県鍼灸マッサージ師会の諸先生方の御出席を頂きました。

本会は、技術の向上、会員相互の親睦、市民医療保健衛生に努める事を目的として来ました。地域の健康技能祭に参加し、毎年研修会を行って来ました。発足時は保土ヶ谷鍼灸マッサージ師会の名称でしたが、昭和44年4月の分区により保土ヶ谷旭鍼灸マッサージ師会に改名致しました。

平成13年7月20日には創立40周年記念式典を横浜ホテルガーデンに於いて開催しました。入会15年会員に対して表彰しました。横浜鍼灸マッサージ師会、神奈川県鍼灸マッサージ師会、衆・参議員諸先生方にも御出席頂きました。

※主な研修会内容

- 肩関節痛の治療法
- 坐骨神経症の経絡治療法
- 循環器疾患について
- 変形膝関節症について
- 杉山真伝流について（Ⅰ）
- 杉山真伝流について（Ⅱ）

保土ヶ谷旭区鍼灸マッサージ師会歴代役員一覧表

年	会　長	理　　事				
S36～	細谷勝美	滝川通典	御厨　久	原千恵子		
S38～	細谷勝美	滝川通典	御厨　久	原千恵子	増田幸蔵	
S44～	細谷勝美	滝川通典	御厨　久	原千恵子	森田健二	
S50～	細谷勝美	滝川通典	春原　章	和田節子		
S52～	細谷勝美	春原　章	森田健二	和田節子		
S62～	細谷勝美	春原　章	森田健二	和田節子	蒲谷悦三	
H1 ～	細谷勝美	浦辺洋介	春原　章	森田健二	寺田公彦	
H11～	細谷勝美	浦辺洋介	森田健二	和田節子		
H15～	細谷勝美	浦辺洋介	森田健二	和田節子	谷口修一	斉藤賢一
H17～	細谷勝美	浦辺洋介	谷口修一	斉藤賢一	海野信宏	
H19	細谷勝美	浦辺洋介	谷口修一	斉藤賢一	海野信宏	吉川俊之

現在、役員6名・会員35名にて毎年講師を迎えての研修を開催し、技術向上に努めている。

会長　君嶋 忠勝

戸塚区鍼灸マッサージ師会は昭和23年に会員僅か6名で発足したささやかな会でありました。
しかしその後神奈鍼の下部組織となり、また浜鍼師会にも属し、創立60周年を間近にした今日では50名に近い会員を擁し、また永年に亘り全鍼師会をはじめ神奈鍼、浜鍼にも理事を多数輩出して及ばずながら業界の発展に寄与してきました。
　ここに浜鍼師会に統合されるに当たり、次の通り簡単に記録を残すこととする。

【歴代役員】

年	会　長	そ　の　他　の　理　事
S23～	津野孫八	青木一太郎　富山政雄　浅田誠志
S35～	津野孫八	青木一太郎　富山政雄　浅田誠志　君嶋忠勝
S47～	君嶋忠勝	津野孫八　青木一太郎　飯沼英子
S51～	君嶋忠勝	津野孫八　青木一太郎　飯沼英子　佐藤国次　豊田敏子
S61～	君嶋忠勝	飯沼英子　佐藤国次　浅野敏男　豊田敏子　河本貞二
H8～	君嶋忠勝	飯沼英子　豊田敏子　小山勝巳　中村　一　渡邉利治　竹中徳子　寺田美樹
H10～	君嶋忠勝	飯沼英子　豊田敏子　小山勝巳　中村　一　渡邉利治　竹中徳子　金子弘志
H12～	君嶋忠勝	飯沼英子　豊田敏子　小山勝巳　中村　一　渡邉利治　竹中徳子　永江寿子
H18～	君嶋忠勝	飯沼英子　中村一　竹中徳子　渡邉利治　永江寿子　豊田敏子　宍戸正博

【上部団体の役員】

①横浜市鍼灸マッサージ師会

津野孫八　S31年より理事1期
　　S34年より監事1期
青木一太郎　S39年より理事1期
　　S47年より理事3期
富山政男　S47年より会長半年　現役にて10月逝去
君嶋忠勝　S49年より副議長1期、S51年より議長6期、H2年より監事　～現在に至る
飯沼英子　S51年より理事3期、S59年より理事3期
佐藤國男　S57年より1期
豊田敏子　H4年より理事6期

②（社）神奈川県鍼灸マッサージ師会

君嶋忠勝　S49年より5年副議長
　　S54年より9年議長
　　H4年より理事（業務部長）
　　H5年2月より9年2ヶ月副会長・理事（学術部長）

③（社）全日本鍼灸マッサージ師会

君嶋忠勝　S60年より副議長1期
　　S62年より渉外局長1期
　　H元年より学術局長1期
　　H5年より渉外局長3期
　　H11年より組織局長1期

【会員数及び会費の推移】

年	会　員　数	会　　費			
		戸塚師会	神奈鍼	浜　鍼	備　　考
S51年	22名	600(1,100)	200	80	＊（　　）内金額は夫婦又は従業員など2人分の金額 ＊浜鍼会費は厚生資金を含む
S53年	28名	800(1,500)	250	80	
S55年	28名	1000(1,800)	500	150	
S57年	28名	1,500(2,800)	600	150	
S59年	34名	1,500(2,800)	700	200	
S63年	36名	1,500(2,800)	1,000	250	
H01年	46名	2,000	1,000	250	上記 2 人分会費制度廃止
H04年	46名	2,500	1,200	250	
H09年	46名	3,000	1,900	250	
H11年	45名	3,500	1,900	250	
H19年	46名	3,000	1,900	250	

【研修会記録】（浜鍼師会後援）

年　月　日	演　　題	講　　師	備　　考
H05,07,16	腰痛に対する三療について	根本宏三先生	神奈川県立平塚盲学校教諭
H06,07,27	五十肩の鍼灸臨床	松本弘己先生	筑波技術短期大学講師
H07,07,07	頸肩腕症候群の理論と実際	早乙女松男先生	神奈川県立平塚盲学校教諭
H08,07,16	変形性膝関節症に対する鍼灸マッサージについて」	綱川章先生	横浜市立盲学校教諭
H09,07,10	坐骨神経痛の理論と実際	森下元先生	湘南医療福祉専門学校講師
H10,07,01	整形外科における主な外来患者の運動療法	望月圭一先生	東大付属病院整形外科理学療法室主任
H11,07,07	むち打ち症の理論と実際	白岩康平先生	横浜市立盲学校教諭
H12,07,04	腰痛症の基礎と臨床	持田のぶ子先生	横浜市立盲学校教諭
H13,0704	パーキンソン症候群の理論と治療の実際	小川眞悟先生	川崎師会研修部長
H14,07,26	操体法の実際	吉岡潤先生	神奈川衛生学園専門学校講師
H15,07,24	慢性関節リウマチの理論とその治療法について	小林福二先生	日本指圧専門学校非常勤講師
H16,07,06	Oリングテストの臨床への応用	芦野純夫先生	国立身体障害者リハビリテーションセンター厚生労働教官
H17,07,05	Oリングテストの実技を中心に	〃	〃
H18,09,13	腰痛とリハビリテーション	炭　孝昭先生	太田総合病院リハビリテーション室室長
H19,07,12	誤嚥防止を目的とした嚥下リハビリテーション	松下秀明先生	身体障害者施設リエゾン笠間医療支援室・言語聴覚士

【主な創立記念祝賀会】

★創立30周年記念祝賀会

昭和53年10月10日（1978,10,10）

会　　場　　湘南鍼灸マッサージ学校

式　　典　　30年の歩み……津野孫八

会長挨拶……君嶋忠勝

感謝状並びに表彰状の贈呈

（感謝状）津野孫八　浅田誠志　青木一太郎　佐藤国次　飯沼英子

（表彰状）津野孫八　吉野義清　森　タミ　青木マツ

来賓挨拶　　保健所長　神奈川県議会議員……4名　横浜市議会議員……2名

神奈川県鍼灸按摩マッサージ師会会長　山田　醇一郎様

横浜市鍼灸マッサージ師会会長　菊池　武久様

参 加 者　　来賓……31名　会員……18名

宴　　会　　余興　落語　金原亭桂太*

その他「吟詠四題」「尺八と民謡」「歌とギター」など賑やかなひとときを過ごした

＊金原亭桂太師匠は当師会初代会長の津野孫八先生のご子息で｛落研｝出身の落語家です。
現在も金原亭伯楽師匠としてお元気で活躍中です

★創立50周年記念祝賀会

平成10年6月14日（1998,06,14）

会　　場　　清十郎（料亭）

式　　典　　50年の歩み……中村　一

会長挨拶……君嶋　忠勝

表彰状の贈呈　飯沼郁夫　新島豊子　君嶋貞子　伊藤喜夫　中島洋光　横溝敏男

感謝状の贈呈　飯沼英子　竹中徳子　小山勝巳　中村一　金子弘志　豊田敏子

神奈鍼会長表彰　君嶋忠勝　飯沼英子　豊田敏子

来賓挨拶　　神奈川県議会議員……3名

神奈川県鍼灸マッサージ師会会長　杉田　久雄様

横浜市鍼灸マッサージ師会会長　菊池　武久様

参 加 者　　来賓……16名　会員……16名

宴会と余興　　カラオケその他

横浜市鍼灸マッサージ師会歴代会長

初代会長	小野　恒一	磯子師会
2代会長	福原喜八郎	南師会
3代会長	船田　大吉	南師会
4第会長	森山　勝衛	神奈川師会
5代会長	半田　　清	南師会
6代会長	勝村　鉄也	西師会
7代会長	高山　一雄	中師会
8代会長	島本　忠雄	神奈川師会
9代会長	岩本　耕平	南師会
10代会長	林　　昌正	鶴見師会
11代会長	矢作　嘉鏡	鶴見師会
12代会長	菊池　武久	中師会
13代会長	荒井　　務	南師会